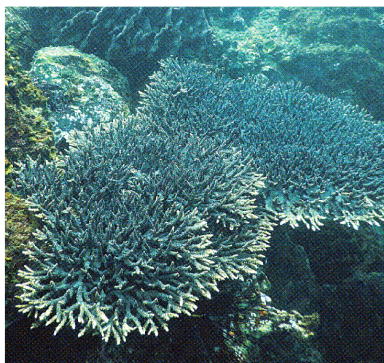
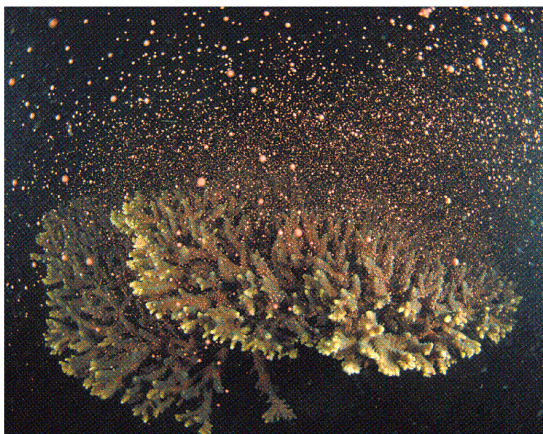




㊦一斉に始まるミドリイシの産卵の様子㊦ポリプが集まって成長するとテーブル状になるミドリイシ



ミドリイシ

学名 *Acropora solitariaensis*

太平洋は千葉県館山から、日本海は長崎県対馬から、どちらも沖縄本島北部まで分布する。体内に褐虫藻が共生している有藻性のイシサンゴ。表面にある直径2ミリのポリプは、褐虫藻が光合成によって作り出すエネルギーを使って、炭酸カルシウムの硬い骨格を作り、出芽してクローンを増やしながら大きなテーブル状の群体に成長する。エンタクミドリイシという和名で知られていたが、2015年に3種に分けられ、鹿児島湾に多く生息している種はミドリイシという和名になった。桜島周辺に大きな群生地が見られたが、台風被害やオニヒトデによる食害などで数が減っている。

時間合わせ一斉に産卵

「サンゴは動物です」というと多くの人が驚きます。石のように硬く、動かない見ためでは無理ありません。サンゴは小さいイソギンチャクのような「ポリプ」が集まった動物です。最も動物らしい様子を見せるのは産卵の時。種によって時刻や潮などのタイミング、卵の形や大きさ、産卵方法が決まっています。同じ種でタイミングを合わせ、真夏の夜に行われます。タイミングを正確に知ることは難しく、過去の研究や経験をもとに、可能性の高い時期を探ります。水中ライトとカメラを手に、産卵に出合えるまで毎晩、真暗な鹿児島湾に潜ります。

おもしろ生き物図鑑

かこしま水族館から

合わせることは、受精チャンスを増やす重要な作戦です。ミドリイシの産卵は真夏の夜に行われます。タイミングを正確に知ることは難しく、過去の研究や経験をもとに、可能性の高い時期を探ります。水中ライトとカメラを手に、産卵に出合えるまで毎晩、真暗な鹿児島湾に潜ります。

昨年8月下旬の午後9時頃、オレンジ色の球体が小さなポリプの口にしり出しました。大きさは約1ミ。卵に見えますが、いくつかの卵と精子が入ったカプセルのようなもので、「バンドル」と呼ばれます。準備が整った台図ですが、まだ先は長いのです。水中で待つこと45分。ふわりとバンドルが浮かびました。気付けば周りのミドリイシからも放たれ、たちまち周囲は鮮やかなオレンジ色で埋め尽くされました。一斉に産卵は十数分。わずかな時間を合わせてたくさんバンドルが交じり合い、水面ではじけます。卵と精子が出合い、受精卵になります。

60万都市の目の前の海中で、人知れず繰り返られる命の誕生です。(展示課学習交流係長・出羽尚子)